

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成29年度採択分）
「季刊誌から隔月刊誌への移行による国際情報発信力強化の取組」
（課題番号：17HP2011）

学術団体名：日本先天異常学会

学術刊行物の名称：Congenital Anomalies

事業期間：平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

1 取組の概要

・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

先天異常学・生殖発生毒性学は次世代を担う胎児の健康を守るための学問分野であり、臨床医学のみならず医薬品、農薬、食品安全性の評価に必須です。本誌は東アジア、中東、東欧圏の基幹ジャーナルとして完全オンライン・混合オープンジャーナルとして刊行されていますが、更なる国際情報発信力強化を目指し以下の取組を行っています。

①国際情報発信力強化のために季刊誌から隔月刊誌に移行。②Noteスタイルの論文カテゴリーを新設し若手をターゲットとし投稿数増加と研究力向上を図り発信力を強化。③特集号の企画発刊：学術集会以取り上げられた重要課題に関する特集号を発刊し情報発信力を強化。④「実験動物発生異常に関わる国際統一用語集（Berlin）」改訂に関する本邦議事録を掲載。⑤論文・査読セミナーの実施：本学会員の論文投稿、査読スキル、出版倫理に関する知識向上を目的に会学術集会以実施。⑥Virtual Issueの編集：本誌の利用を高めるためテーマを決め発刊。⑦プロモーション活動：シンポジスト、優秀演者に投稿を依頼。優秀著者を表彰。また国内外の学術集会、ワイリーネットワークで広報活動を実施し投稿数の増加を目指す。⑧迅速な査読と国外査読者を増やし国際化を進める。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

①投稿数を事業3年目で120論文、事業完了時には130論文、②掲載論文数を3年目40報、事業完了時45報を目標、③発刊数は年6回を維持、④フルテキストダウンロード数は事業完了時25000を目標、⑤事業完了時の目標IF1.25、⑥事業完了時の総引用数450回、⑦特集号の発刊、⑧「実験動物発生異常に関わる国際統一用語集（Berlin）」改訂に関する議事録掲載、⑨新しい論文カテゴリーNoteの運用、⑩論文査読セミナー、⑪査読の迅速化と国際化、⑫Virtual Issue発刊による発信強化。

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

①投稿数は2017年120、2018年109論文、②掲載論文は2017年42報、2018年41報、③発刊数は年6回を維持、④フルテキストダウンロード数は2018年44691件/年（122論文/日）に増加、⑤IFは2017年1.149、2018年1.230に上昇、⑥2018年の総引用数は507回に上昇、⑦特集号Folic Acid and Neural Tube Defect (vol 57, issue 5, 2017)、Cleft Lip and Cleft Palate (vol 58, issue 4, 2018)を発刊、⑧用語改定議事録第1報をvol 58, issue 3, 2018年に掲載、⑨Noteの投稿数は2017年17報、2018年30報、⑩論文査読セミナー「アクセプトされるはじめての英語論文作成」、「English writing seminar for young scientists」、「Congenital Anomaliesの査読」等7セミナーを実施、⑪2018年は国外査読者33%（29/88）、査読のFirst Decisionまでの期間は19日に短縮、⑫Virtual Issue「Cardiovascular Development and Defects」、「Developmental Anomalies in Embryo-Fetal Development Studies」、「Endocrine Disrupter」を発刊。

・今後の計画

本誌60年の歩みについて調査した結果、神経発達・発生毒性に関する論文、Noveltyの高い臨床、基礎、疫学研究は高い引用数を示していた。本誌の国際情報発信力をさらに高めるために、学術集会プログラム委員と連携し「神経発生発達毒性」、「希少先天疾患の原因遺伝子と治療戦略」等の特集号を企画します。本事業終了時の数値目標を投稿数140報（採択率27%）、フルテキストダウンロード数50000件以上、総引用数600回/年、IF1.5に上方修正し更なる情報発信力強化に努めます。